

## 越山若水

2021.9.14

「永平寺はいかなる道に進むのか」と問い掛ける雲水に、答えた口調は穏やかだったという。「春は春の風が吹き、夏は夏の風が吹く」。季節は移ろってもたゆまず

変わらず修行の日々は続いていく、との意だったろうか▼曹洞宗大本山永平寺の前貫首、福山諦法東堂禪師が死去した。冒頭の禅問答は2008年4月、福山東堂禪師が「晋山開堂」に臨んだときのこと。当時の新聞記事は「時にユーモアを交え気さくな人柄がのぞいた」ので、法堂を包んだ緊張感が和らいだと書いている▼警咳に接することはできなかったが、言葉の分かりやすさを大事にした人のようだ。かつてインタビューで好きな言葉を聞かれ「『暗いと不平を言うよりも、すすんで灯りをつけましょう』といった平易な言葉がいいですね」（曹洞禅グラフ123号）と答えている▼「仏教は8万4千の教えがあるが突き詰めると▽悪いことができない▽善いことは進んで▽自分の心を清める。難しく考えずこの三つを行えばいいのです」。小紙の創刊110周年の企画に寄せてもらった言葉である▼その際こんなメッセージもあった。永平寺の修行僧は福井で温かい心の応援をもらい、全国に帰っていく。ありがたく心強い。福井人は福井に自信を持ってほしいとの趣旨でもあった。仏教は身近で親しめるものと、改めて感じさせてくれる人だった。